

RX63N搭載 豊富な周辺機能を搭載した組み込みネットワーク・ロガーCPUボード



※参考写真

ESPT-RXは、SH-Etherシリーズを継承したイーサネットコントローラとUSB2.0ホスト/USBデバイス機能を1チップ化したCPU、RX63Nを搭載した組み込み用途のCPU基板です。豊富な周辺機能を搭載していますので、ネットワーク接続機能を備えるOA機器、FA機器等のCPU評価はもちろんのこと、そのまま組み込み基板として使用することもできます。

USBインターフェイスを4つ搭載

ESPT-RXは、近年、組み込み機器でも汎用となっているUSBインターフェイスを4系統搭載しています。CPU内蔵コントローラを使用しFunction×2ch(Fullスピード)の他、USB専用コントローラR8A66597を使用し、Host×2ch(Low / Full / Highスピード)を搭載。必要な用途により、インターフェイスの選択ができます。

※CPU内蔵USBコントローラは1chのみOTG、Hostに変更可能。

周辺環境が基板に及ぼす影響をログ 基板に温度センサーを搭載

ESPT-RXはIoT(Internet of Things)用途を想定しています。CPU内蔵温度センサーを使用し、温度変化を測定することで、環境にあわせたモノ作りをバックアップします。データはネットワーク、コマンドインタプリタデバッグ、SDメモリなどに出力が可能。デバッグ時や運用時に“何がおきたか”の参考となります。

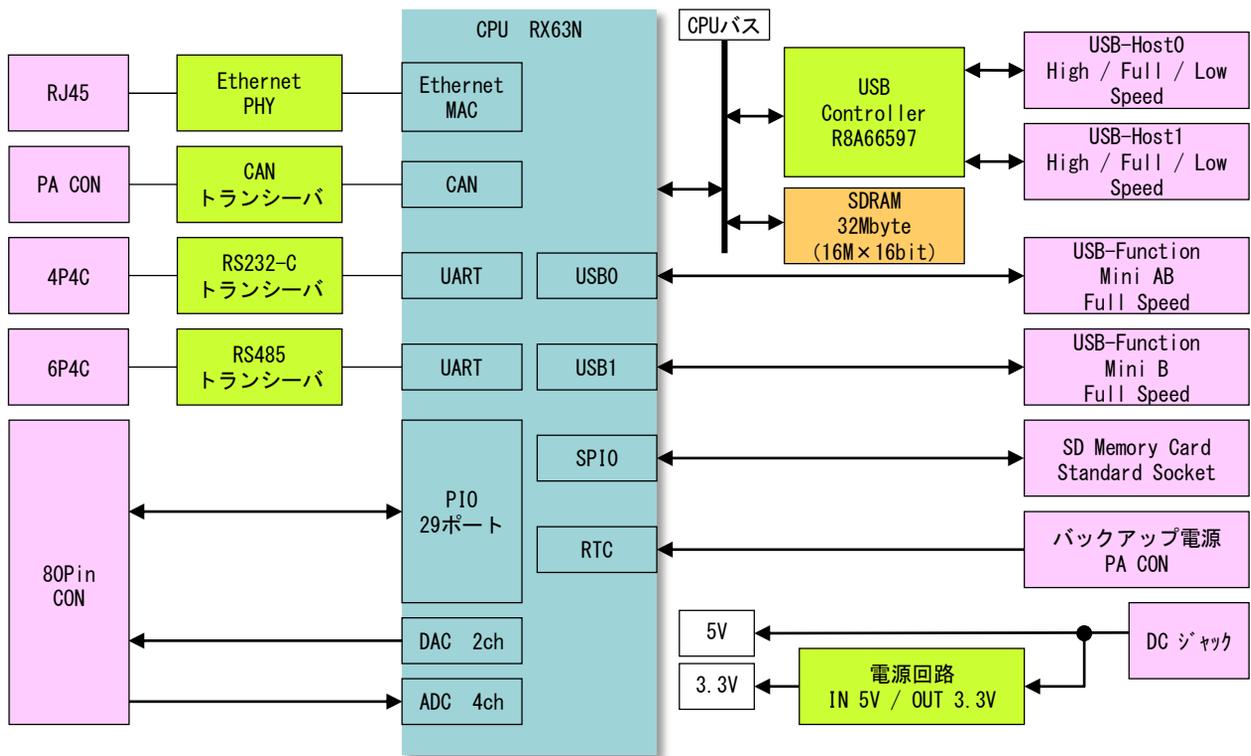
ネットワーク製品に最適、RX63Nを搭載

ESPT-RXに搭載するRX63Nは、32ビットCPUコア「RX600(96MHz)」、SH-Etherシリーズを踏襲するイーサネットコントローラとUSB機能を4系統搭載し、SPIインターフェイスを使用し、SDメモ리카ードを扱うことができます。

Centeミドルウェアとの組み合わせで 様々な組み込み機器への応用が可能

ESPT-RXはCenteミドルウェアシリーズの動作確認用の標準評価CPUボードです。豊富なネットワークプロトコルスタックや、ファイルシステム、各種USBドライバが対応します。試作品の開発から製品への搭載まで、幅広く応用頂けます。

ハードウェアブロック図



ハードウェア概要

●CPU	RX63N R5F563NEDDFC	
	CPUコア動作クロック96MHz	
	内蔵ROM 2M byte	
	内蔵RAM 128K byte	
●SDRAM	32MBytes (16M×16bit)	
●LAN I/F	IEEE802.3u 10Base-T/100Base-TX 1ポート	
●シリアルポート	RS-232Cトランシーバ 1ポート	モジュラージャック 4極4芯
	RS-485トランシーバ 1ポート	モジュラージャック 6極4芯
●CANポート	1ポート	ナイロンコネクタ DF13A-3P-1.25H
●USBポート	RX63N内蔵 FUNCTION FULLスピード 1ポート	mini AB メス
	FUNCTION FULLスピード 1ポート	mini B メス
	R8A66597 HOST LOW FULL HIGHスピード 2ポート	A メス
●SD I/F	SPIモード 1スロット	スタンダード SDカード
●拡張用ヘッダー	PIO 29ポート	
	DAC 2ポート	コネクタ FX8C-80S-SV5
	ADC 4ポート	
●RTC	CPU内蔵	
	バックアップ電源は外部より供給 2.0V~3.6V	ナイロンコネクタ B2B-XH-A
●電源電圧	5V±5%	
●消費電流	T. B. D	
●外形寸法	91 (W) × 55 (D) × 21 (H) mm	
●重量	約70g	

▼開発・発売元

データテクノロジー株式会社

〒190-0022 東京都立川市錦町1-8-7 立川錦町ビル8F

TEL : 042-523-1177 FAX : 042-523-7070

E-mail : sales@cente.jp URL : <http://www.cente.jp/>



▼お問い合わせ先